



JSQC ニュース

No.289

発行 社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス 医療の質・安全部会の活動状況
- 2-私の提言 倫理教育の重要性
- 2-ルポルタージュ 第16回 YSSルポ
- 3-第38年度事業計画/10月の入会者紹介
- 4-新規研究会募集/行事案内/論文募集/研究助成募集のお知らせ

医療の質・安全部会の活動状況

早稲田大学 医療の質・安全部会長 棟近 雅彦

医療の質・安全部会は、2005年12月の第1回部会総会以来、3年が経過しました。当初100名の部会員で活動を開始しましたが、現在は約210名の部会員が登録されています。3年後の目標値としては部会員300名でしたので、目標には到達していませんが、ますますの規模を維持することができます。本稿では、最近の本部会の活動と今後の計画について述べたいと思います。

研究テーマとしては、医療の質マネジメントシステム（医療QMS）と患者状態適応型パス（PCAPS）を柱にしています。前者は、2007年5月に開始したQMS-H研究会と2007年3月から部会内に立ち上げた医療QMS研究会という2つの研究会で研究を進めています。いずれも研究の目的は、医療QMSモデルおよび導入・推進方法の確立です。QMS-H研究会では、7つの病院と共同で医療QMSモデルの開発を行いながら、各病院へ導入・推進しています。既に5つの病院でISOの認証取得まで進んでいますが、認証取得が目的ではないので、継続的な改善をいかに行うべきかについて研究を継続しています。来年3月8日には成果発表のシンポジウムを予定しています。

医療QMS研究会は、約40名の部会メンバーが登録され、3つのワーキンググループ（WG）に分かれて議論

を行っています。WG1はISO9001の医療分野での解釈、WG2は内部監査、WG3は管理指標について研究を進めています。全体会合だけで18回の会合を持ち、各WGは、中間成果を今年5月の研究発表会で発表しました。WG2は11月の研究発表会でも報告しました。今後は、来年3月までにまとめを行い、5月の研究発表会で最終報告を行う予定です。

PCAPSは、標準的な診療行為を記述した工程表であるクリニカルパスの新しい形態で、患者状態をもとに臨床経過をいくつかの適切なユニットに区切って、ユニットからユニットへ次々と移動していくパスです。適用率が低い、電子化に対応していないなどの従来のパスがもつ欠点を克服し、診療の質保証に効果的なツールと期待されています。このテーマに関しては、毎年3月と9月にシンポジウムを開催し、成果報告を行ってきました。PCAPSは電子化システムを用いて運用することになりますが、昨年度末にプロトタイプを作成することができました。現在は、そのプロトタイプを実際に病院で試行する段階まで進んできました。来年3月7日に今年度の最終成果報告シンポジウムを予定していますが、その際には、この試行で得られた様々な知見について報告できると思います。

本部会では、これまでに述べた研究活動に加えて、教育・啓蒙活動も

重要な柱と考えています。これに関しては、2006年5月から7月に、「医療のための質マネジメント基礎講座」を開催しました。この講座では、医療QMSを構築、運用していくために必要な基礎概念、技法などを初心者にもわかりやすいように解説するものです。具体的には、質マネジメントに関する基礎概念、事故分析手法、医療QMS、KYT、5S、エラープルーフ、PCAPSなどを取り上げました。諸事情で、この講座をしばらく中断していましたが、来年4月からリニューアルして再開する予定です。

当学会では、3年前から中期計画を立案して学会の活性化を図る活動を開始しました。この10月で、1期目の3年間が終了しました。この3年間は、研究活動は順調に進んでいたものの、教育・啓蒙が不十分で、そのために部会員増加も進まなかったと分析しています。これからの3年間では、部会員300名、テキストの出版、セミナーの開発、新たな研究会の立ち上げと成果の発信、現医療QMS研究会の成果報告を品質誌に掲載、を成果目標として掲げ、活動を進めていく予定です。

本部会の活動は、年次大会で総会を開催し報告するとともに、JSQCホームページ中の部会のページに掲載しています。ぜひご覧いただき、忌憚のないご意見をお聞かせいただければと存じます。

● 私 の 提 言 ●

倫理教育の重要性

株式会社日立製作所 新家 達弥



不正表示、偽装、データ改ざん、内部告発など製品品質以前の人や組織の品質

の劣化に係る事件が目につく。社会の品質が劣化していることが大本にあるという意見もあるが、どちらが先かは「ニワトリと卵」の話になってしまう。ただ、倫理が重要な課題となっていることは論を待たない。

倫理は、行動の規範としての道徳観や善悪の基準と定義されているが、法が制裁を付随した他律的規範であるのに対して、社会のモラルに従い各人が自主的に遵守する自律的な規範と位置付けられている。

ここで、「我々の持つべき倫理とは何か？」との問いかけに的確に答えられるであろうか。その時の自分の立ち位置で答え方が変わる。例えば専門家としての技術者倫理や医者倫理なのか、組織人・職業人としての企業倫理に係るものか、または社会人としてあるいはもっと基本的な人間としての倫理なのかなどである。いずれにしてもそれぞれの倫理を踏まえて、我々はより高いものを求められる状況になっている。

ところで、製品の開発・製造に係っている技術者の倫理について考えてみる。技術者は科学技術を活用して、社会を豊かにする使命を持っているが、その為には、社会に対して安全・安心なものを提供する責任、更には地球環境の維持や資源の有効

活用などの責任を有している。これらの社会の期待と信頼に応える為にも技術者は高い倫理観が求められる。

この為には、技術者の倫理教育は極めて重要であるが、実態は十分な倫理観の醸成がなされているとは言いがたい。例えば大学の理工学部における技術者の倫理教育は十分であろうか？企業は技術者の倫理教育システムを整備して、継続的な教育や自己研鑽を十二分に支援しているであろうか？「チャレンジャー号の爆発の悲劇」の様に技術者が打上げ中止を勧告しても、上司が経営的判断で勧告を無視する時に、技術者はどのような行動を取るべきかを自律的に判断できるようになっているであろうか？

科学技術が人類に与える影響が大きくなるに従い、安全性・信頼性の高い製品やシステム作りとともに、倫理教育の質の更なる向上が求められてきており、倫理教育は産学官が協同して取り組まねばならない重要な課題である。

第16回 YSS ルポ

(財)人材開発センター 富士研修所

去る9月7日から8日にかけて、第16回ヤング・サマー・セミナー(YSS)が(財)人材開発センター様のご厚意により同富士研修所にて開催された。今年は企業から1名、大学教員1名、学生21名の計23名が参加し、講演と研究発表・討論が行われた。

初日は、それぞれの分野でプロフェッショナルの道を歩まれておられる3名の方にご講演いただいた。(株)サントリー・品質保証部の岩田修二氏の「食品の品質保証」についての講演では、食品業界における品質の特徴や品質保証への取り組みを生産者側の視点からお話いただいた。次に、筑波大学システム情報工学科リスク工学専攻講師の伊藤誠氏より「信頼されすぎない高信頼度なシステムへ」というテーマで、ユーザーとユーザー支援システムとの関係についてお話いただいた。最後に、(株)角野

品質管理研究所・代表取締役の角野久史氏に「不祥事事件(不二家・石屋・赤福)と中国冷凍ギョウザ事件を科学する」という題目で近年世間を賑わせている食品に関する事件について、長年現場で指導されている立場からの貴重なお話を伺うことができた。

夕食後の懇親会では、若手研究者同士の親睦を深めるとともに講演に関する議論や情報交換などがなされ、有意義な時間を過ごした。

翌日は5名の学生による研究発表が行われた。東京大学から鈴木彬さんが「地域連携モデルの作成」、早稲田大学から梶原千里さんが「看護師教育システム構築に関する研究」を、東京工業大学より小暮遼さんが「環境経営2.0」を、電気通信大学から土田靖生さんが「サービス・サイエンスに基づく教育の質的向上のための測定モデル」を、武蔵工業大学から荻原直矢さんが「対人関係におけるストレスの研究」という題目で発表を行った。

本セミナーは毎年自然に囲まれた素晴らしい環境の中行われ、今後の品質管理界を担う若手研究者に対し大きな役割を果たしている。感謝とともに、今後のさらなる発展を期待したい。 土田 靖生(電気通信大学)

(社)日本品質管理学会 第38年度事業計画

行事 / 月	H20 10月	11月	12月	H21 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
年次大会・通常総会		第38回 8日(土)											第39回 関西地区
研究発表会	本部							第89回 30日(土)-31日(日)					
	中部								第90回				
	関西											第91回	
講演会							第105回 本部	第106回 関西	第107回 中部				
ヤングサマーセミナー											第17回		
シンポジウム			第125回 本部 9日(火)			第126回 本部 第127回 関西			第128回 中部		第129回 関西 第130回 本部		
事業所見学会	本部					第339回		第341回		第343回			
	中部							第340回		第344回			
	関西				第338回			第342回		第345回			
クオリティパブ			第63回 12日(金)		第64回		第65回		第66回				第67回
その他の行事	6th ANQ 28日(火)-31日(金)												7th ANQ 15日(火)-18日(金) 東京
会合 / 月	H20 10月	11月	12月	H21 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
理事会	370回 22日(水)		371回 3日(水)	372回 28日(水)		373回 18日(水)		374回 19日(火)		375回		376回	377回
庶務委員会													
会員サービス委員会													
会計委員会	15日(水)	27日(木)		20日(火)		11日(水)		12日(火)					
規定委員会													
論文誌編集委員会	9日(木)	18日(火)	18日(木)	21日(水)	20日(金)	23日(月)	24日(金)	25日(月)	29日(月)	30日(木)	31日(月)	—	2日(金)
学会誌編集委員会		7日(金)		13日(火)									
事業委員会	17日(金)		11日(木)	22日(木)	19日(木)	24日(火)							

※論文投稿は委員会の開催10日前までをお願いいたします。直前の投稿では審査開始が遅れることがあります。

2008年10月の入会者紹介

2008年10月22日の理事会において、下記の通り正会員10名、準会員1名、賛助会員1社の入会が承認されました。

.....
(正会員10名) ○菅野 邦宏 (日本信号) ○山崎 美智子 (金沢医科大学)

○ABULAITI, Gulimire (東京工業大学) ○下長根 浩 (パナソニックエレクトロニックデバイス) ○藤原隆次 (ビジネスキューブ・アンド・パートナーズ) ○横山 成紀 (エキスパート・クラスター) ○丹原 弘明 (ヤマハマリン) ○西山 貴久 (日本飛行機) ○深見 克巳・渡辺 知洋 (豊田自動織機)

.....
(準会員1名) ○代田 淳平 (電気通信大学)

.....
(賛助会員1社1口) ○不二工機

.....
正会員:2720名
準会員:96名
賛助会員:172社199口
公共会員:23口

新規研究会を受け付けます

研究開発委員会では、本年度に設置する新規公募研究会の申請を受け付けます。奮って申請してください。特に、若手会員を主査とする研究会を歓迎いたします。

研究期間：2009年4月～2010年3月（1年間）

申請方法：「新規研究会設置申請書」（様式204-1）をホームページよりダウンロードし、ご記入の上、郵送で本部事務局宛にお送りください。
http://www.jsqc.org/ja/oshirase/kenkyuukai_shinki.html

申込締切：2009年2月20日(金)必着

研究会の申請と運営：

- 研究会の申請にあたり、申請者は共同研究者（学界・産業界）を5～10人位事前に働きかけて集め、申請書に記入する。理事会承認後JSQCニュースでメンバーを公募する。
- 研究目的と年間の研究活動計画を作成する。
- 1研究会のメンバーは20人までとする。
- 会場は原則として日本科学技術連盟東高円寺ビル会議室を利用する。
- 時間は18時～20時とし、食事を支給する。ただし、会場の都合がつけば午後でも可とする。
- 研究会運営費は一人1回当たり1,150円（内訳：通信費・資料代・食事代）。ただし、年間開催数は11回を限度とする。

「品質」誌、投稿論文の募集！

会員の方々からの積極的な投稿をお勧めします。投稿区分は、報文、技術ノート、調査研究論文、応用研究論文、投稿論説、クオリティレポート、レター、QCサロンです。

論文誌編集委員会

行事案内

●第89回研究発表会（本部）発表募集

日時：2009年5月30日(土)31日(日)

会場：日本科学技術連盟
東高円寺ビル

(1) 申込期限

発表申込締切：3月23日(月)

予稿原稿締切：4月24日(金)必着

参加申込締切：5月20日(水)

(2) 研究発表・事例発表の申込方法

同封の発表申込要領をご覧ください。

(3) 参加申込

3月送付の参加申込書にご記入の上、本部事務局までお申し込みください。

行事申込先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/

本部：TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail: apply@jsqc.org

事務局からのお知らせ

(社)日本品質管理学会30周年記念事業 第38年度研究助成募集要項

1. 趣 旨

21世紀を担う若手研究者や海外からの留学生に対し、その研究活動をサポートすることを目的とします。個人の研究への助成はもちろん、同じようなテーマを抱えた少数の若手研究者の研究集会への助成、海外の若手研究者の招聘への助成なども含みます。

2. 助成金額：1件10万円 5件以内

3. 期 間：1年間（第38年度：平成20年10月から平成21年9月）

4. 募集の対象

選考時に申請者が(社)日本品質管理学会の正会員もしくは準会員であり、次のいずれかの条件を満たす者となります。なお、本研究助成を過去2回採択されたことがある場合は対象から除外します。また、(2)の条件を満たす者については選考時に考慮をいたします。

- (1) 申請時に35歳以下であり、大学、研究所、研究機関、教育機関等において研究活動に従事する者。
- (2) 申請時に日本の大学院に在籍する外国籍の留学生。
- (3) 申請時に35歳以下であり、海外の大学、研究所、研究機関、教育機関等において品質管理についての研究活動に従事する者で(社)日本品質管理学会の主催する諸行事、または品質管理に関連する研究集会に参加しようとする者。ただし、申請は招聘者が行うこととします。

5. 助成対象

品質管理に関連した研究に対する助成を対象とします。

6. その他の申請条件

- (1) 報告書は年度内に提出してください。
- (2) 研究成果を当学会誌へ投稿、あるいは研究発表会などで発表することを奨励します。
- (3) 学生が申請をする場合、申請時に指導教員の所見を必要とします。

7. 申請の方法

所定の「(社)日本品質管理学会 研究助成交付申請書」を用いてください。申請書の様式は学会ホームページを参照してください。

<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/jimukyokukara.html>

8. 募集期間：平成20年12月～平成21年3月末日

9. 選考方法

(社)日本品質管理学会研究助成委員会が審査選考を行います。

10. 決定通知

平成21年4月中旬に通知します。なお、決定数が5件に達していない場合、追加募集をすることもあります。

11. 申請書提出先

(社)日本品質管理学会 本部事務局

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南1-2-1

TEL 03-5378-1506 FAX 03-5378-1507

E-mail: office@jsqc.org